

## 第1回 鉄道の輸送トラブルに関する対策のあり方検討会 発言概要

日 時：平成30年2月2日(金) 13:45～15:00

場 所：中央合同庁舎3号館11階特別会議室

### <座長の主な発言>

- ・本検討会は、どこか特定の会社を責めるような場ではなく、将来を考えて今何をしなければいけないかを議論するような前向きなものとしたい。

### <有識者の主な発言>

- ・鉄道事業者ならではの共通した問題点がどこにあるのかを見つけて解決していくこととしたい。
- ・台車については、設計・製造・検査を見直して、信頼性と経済性との両立を探る検討も必要である。
- ・電気設備のITの活用については、10年前から導入が始まり、技術的にわかってきていることも多くあるので、この機会をチャンスと捉えて前向きな議論を進めたい。
- ・ITを活用した保線作業の生産性向上についても議論する必要がある。
- ・鉄道に優秀な人材を集める努力も必要である。
- ・トラブルの発生原因とその背後にある見えにくい事実を丁寧に分析することで、新たな知見を得て、実効性のある解決につなげていくことが重要である。
- ・事業者側の判断が利用者の安全や安心に直結することを重く受け止め、鉄道利用者の立場を十分に加味した適切な対応策の検討を進めていただきたい。

### <鉄道事業者等の主な発言>

- ・技術が発達した中で、昔に比べてトラブルが減っているので、体で覚えることが少なくなっている。他社のトラブルを自分のこととしてしっかりとらえることも重要である。
- ・トラブルの機会が減っており、普段できることでも、トラブル発生時に冷静な判断ができていないことが多い。緊張感のある訓練が必要である。
- ・ベテランの社員が減り、若い社員が増えている。指令の的確な判断には経験が必要だが、その経験が少なくなっている。何かあった時にすぐ判断できるようにシミュレーション・訓練が必要であり、その方法も含めて検討が必要である。
- ・人材確保のためには、鉄道の技術者のステータスを上げることも必要である。
- ・機械化・自動化を進めた場合に、機械と人間の役割分担をどうするのが課題である。また、最後は作業員の判断で事故やトラブルが生じているので、外注先の技術者も含めて作業員の教育が重要である。
- ・特に保線作業については、働き方改革をやっていく必要がある。
- ・お客様の意識が変わり、トラブルに対する評価が厳しくなっていると感じている。鉄道事業者側は旧態依然の価値観でやっている面もあるため、変わっていかないといけない。